

研究・調査報告書

| 分類番号  | 報告書番号       | 担当     |
|---|-------------|--------|
| C-141   | 14-318      | 慶應義塾大学 |
| <b>題名(原題/訳)</b>   |             |        |
| <p>Comparison of clinical outcomes in nonintubated patients with severe alcohol withdrawal syndrome treated with continuous-infusion sedatives: dexmedetomidine versus benzodiazepines.</p> <p>挿管されていない重篤なアルコール離脱症候群患者における持続点滴による鎮静剤を用いた治療の臨床転帰の比較: デクスメドミジン対ベンゾジアゼピン。</p>  |             |        |
| <b>執筆者</b>  |             |        |
| Crispo AL, Daley MJ, Pepin JL, Harford PH, Brown CV.  |             |        |
| <b>掲載誌</b>  |             |        |
| <p>CMAJ. 2014 Sep 2;186(12):E449-56. doi: 10.1503/cmaj.131807. Epub 2014 Jun 23.</p> <p>Pharmacotherapy. 2014 Sep;34(9):910-7. doi: 10.1002/phar.1448. Epub 2014 Jun 5.</p>   |             |        |
| <b>キーワード</b>  | <b>PMID</b> |        |
| デクスメドミジン、ベンゾジアゼピン、入院治療、アルコール離脱症状  | 24898418    |        |
| <b>要旨</b>   |             |        |
| <p>研究目的:<br/>                     アルコール禁断症候群(AWS)のために標準内科治療に加えてベンゾジアゼピンまたはデクスメドミジンの持続点滴を必要とした重篤なAWSで気管内挿管されていない患者で、その有効性と安全結果を比較する。</p> <p>[デザイン] 後向きコホート研究。</p> <p>[施設] 同じネットワークでAWSのために異なる治療戦略をもつ2つの病院</p> <p>[患者] 2011年4月1日から2012年10月31日の間に重篤なAWSのために入院した合計61人の挿管されていない成人で標準内科治療をうけ、さらにベンゾジアゼピン(BZD)の持続点滴も受けた患者(ロラゼパムまたはミダゾラム;33例)またはデクスメドミジン(DEX)(28例)。</p> <p>測定と主な結果:<br/>                     主要アウトカムは、気管挿管またはアルコール離脱発作の発生を必要とする呼吸困難の率を含む複合エンドポイントであった。複合エンドポイントの有意差は、BZDとDEX群(それぞれ、9.1%と7.1%、<math>p &gt; 0.99</math>)の間に示されず、また個々の構成要素である呼吸困難(9.1%と7.1% <math>p &gt; 0.99</math>)アルコール離脱発作(0%と3.6% <math>p=0.46</math>)でもなかった。DEX群は試験薬(BZD群の中央値[四分位数範囲]105[60-199.5]mgに対してDEX群の3.5[0-12]mg)の開始の後ロラゼパム等価物の低い全量の中央値を受けた、しかし、これは気管挿管の必要性の減少、入院期間の減少と関連するものではなかった。DEXは、血圧低下と徐脈を含むより薬の副作用イベントと関係していた。懸念することは、DEXは適切に症状を評価することを難しくし、症状に応じてBZDsを投与する能力を弱める可能性がある。総入院費用は群間で類似していたにもかかわらず、DEXは患者当たりの試験薬コストの高さと関係していた。</p> <p>結論:<br/>                     DEXは、AWSの治療で、BZD節約効果を示した;しかしながら、このサロゲートエンドポイントは、注意して解釈されなければならない。本研究がAWSを有する患者で気管挿管の要件を予防する際にDEXの保護作用の可能性の反証をあげることができないにもかかわらず、副作用イベントの増加と試験薬経費の増加が観察された。入院診療でDEXが使用される場合、それがAWSで有益性が証明されたBZDsの補助的療法として使う場合のみである。</p> |             |        |